

## 掲示型教材や体験型教材を活用した情報モラル実践

北海道高等聾学校 教諭 新谷 洋介

y-araya@newcanyon.com

http://oct-kun.net/

キーワード：聴覚障害、特別支援教育、情報モラル、携帯電話

### 1. はじめに

北海道高等聾学校（以下、本校と表記）は北海道内ただ1つの聾学校高等部であり、生徒の大半は寄宿舎から通学している。本校生徒にとって、携帯電話のメール機能、Webサイト閲覧機能は、他とコミュニケーションを取るために非常に便利な機能であり、学校内においても日常的に使用している。それは常にネット上の危険と隣り合わせにいた状態であると考えられる。

そのため、2007年度より情報モラル教育教材の開発と授業実践を行ってきた（新谷・長谷川 2007）。しかし、携帯電話を利用することによって発生するトラブルを授業の中で一つずつ取り上げることは現在の教育課程上、時間的に無理があったため、ショートホームルームや放課の時間等を活用して、担任教師が継続した指導を行うことができるよう、掲示型教材と体験教材のセットを開発することにした。本発表では、掲示型教材と体験教材を開発したことと活用事例について報告する。

### 2. 開発した教材について

#### (1) 掲示型教材

掲示型教材には、生徒が、事例をイメージできるように、また、容易に理解できるように4枚の写真による解説を含めた。さらに、2次元バーコードを掲載し、対応する体験型教材に容易に携帯電話からアクセスできるようにした。

本教材は HTML 形式で作成したことで、「ひらがな・なびい」を利用して、漢字にふりがなを付けることが可能となり、言葉の発達に遅れがある生徒にも学習しやすい教材を提供できるようにした。

生徒への提示方法は、定期的に、各担任に4コマ画像付き教材を配布し、学級に掲示してもらうよう依頼した。掲示までの流れは①担当教員が資料を印刷して配布、②朝の打ち合わせで資料についての簡単な説明、③学級への提示である。



図1 「4コマまんが風掲示場型教材」

#### (2) 掲示型教材・体験教材セット

4コマの画像解説付き教材の内容に対応する携帯電話で体験できる教材も同時に開発した。これは、携帯電話を実際に利用した疑似体験は有効（新谷・長谷川 2007）であったことから、4コマの画像解説付き教材を読み、さらにその資料で使われているサイトを自分の携帯電話で追体験ができるための工夫である。

この教材では次の6点などを、実際に携帯電話を使って体験可能である。これによって、安全な環境の下でネットの危険性を実感させることが可能となる。図2に「掲示板体験」の教材を表示させた画面と掲示型教材を示す。

- ・ワンクリック詐欺やフィッシング詐欺などの詐欺サイトの疑似体験
- ・プロフの作成を体験し、入力した情報についての解説を得られる
- ・写真が使われてしまうWebページの例
- ・掲示板は完全な匿名ではなくIPアドレスが記録されている例
- ・荒らされている掲示板の例
- ・パケット通信料金が高額になってしまう例

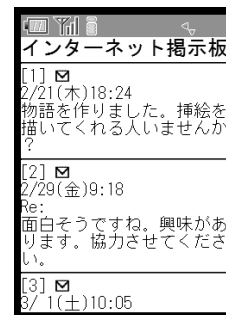


図2 「掲示板体験教材画面」

### 3. 4コマ情報モラルワークショップ

#### (1) 目的

- ・生徒自身で携帯電話におけるコミュニケーションについて考え便利なこと、気をつけなければならないことを考える。
- ・話し合い活動を通して色々な考えがあることを知り、相手の気持ちを考えられる機会とする。

## (2) 授業の流れ

授業の流れについては次の通りである。

## 「ワークショップ」

- 1) グループテーマを提示し、プリントに書かせる。
- 2) 生徒へ具体的な内容などプリントをもとに記述させる。
- 3) 生徒にそれぞれ発表、質疑をさせ深めさせる。

## 「まとめと4コマづくり」

- 1) 発表した具体例から元になる4コマ案を選ばせる
  - 2) リーダーが中心となり、みんなで4コマのストーリーを考える
  - 3) ストーリーを元に、写真か絵などで4コマを作る
  - 4) 解説文を考える。
- ※ 作成した4コマは、前述の4コマ教材と同様に教室に掲示する。

## (3) 授業の様子

授業は、興味関心についての事前調査結果により、「掲示板で悪口を書かれた」「しつこいメール、迷惑メール、嫌なメール」「多額の請求が来た」「メールなどのコミュニケーションに便利」の4グループに分かれて行われた。いずれのグループもリーダーを中心に黒板で意見をまとめるなどお互いに意見を出し合う様子が見られた。また、異性からしつこいメールが来て困るといった話題が出され、悪意を持たずにメールを送るものと、受け取る側の気持ちの違いを共有する機会となったグループもあった。

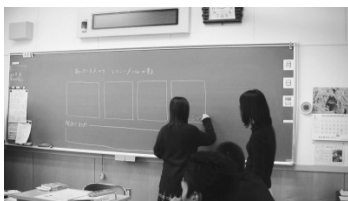


写真1 「4コマ情報モラルワークショップの様子」

## (4) 生徒へのアンケート結果と考察

生徒に対し、授業終了後に「4コマまんがを実際に作ってみて感じたこと」について、「3: はい」「2: ふつう」「1: いいえ」の3件法でアンケートを行った。

また、「今後の携帯電話の使い方」についてアンケート調査を行った。結果を表1、2に示す。

授業については、知識面と、相手の気持ちを知る項目が特に高い結果であり、授業をやってみたいと思うかどうかの質問に対しては低い結果が得られた。具体的かつ身近な事例を取り上げたこと、お互いの意見を聞くことができるワークショップ形式を取り入れたことで、知識と相手の気持ち理解について効果があったと考える。

携帯電話の使い方については、若干であるが、本授業および4コマ掲示により、生徒自らメールの出し方や書き込みが変化したことが伺われた。

表1 「4コマまんがを実際に作ってみて感じたこと」

	平均値 (SD)
グループの意見をまとめることができた	2.26 (.562)
携帯電話のトラブルや効果について知ることができた	2.53 (.513)
相手の気持ちを知ることができた	2.42 (.607)
同じような授業をやってみたいと思いますか	1.63 (.597)

N= 19

表2 「授業や4コマ掲示をみて携帯電話の使い方が変わりましたか」集計結果

	度数
メールの出し方が変わった	3
掲示板などの書き込みが変わった	3
友達に携帯電話のよい使い方を教えた	2
特に変わらない	9
その他	4

## 4. まとめ

掲示型教材を教室に掲示する方法は、長期的に啓発する指導方法として一つの手段となったのではないかと考える。

掲示型教材を実際に作成するテーマを設定したワークショップについては、4コマ画像付きの教材作成をゴールとしたことで、携帯電話利用に関する1つの指針がグループ間で共通理解できるきっかけとなった。また、生徒のアンケート結果から、知識だけではなく、相手の気持ちを知る機会となったことは、モラル教育として有効であったと考える。

今後も、生徒が上手に携帯電話を活用できるように支援していきたい。

## 付記

本稿は、第44回全日本豊教育研究大会において発表したものを加筆修正したものである。

## 参考文献

新谷洋介(2008)、OCTくんと学ぼう

<http://oct-kun.net/>

新谷洋介、長谷川元洋(2007)、携帯電話のインターネット機能の特性を考慮した情報モラル教材の開発と授業実践、日本教育工学会第23回大会講演論文集、pp657-658

富士通ラーニングメディア(2007)、ひらがな・なびい